

すこやかちゃん



かず ゆき
和幸ちゃん(平成19年9月5日生)
両親=石毛 静・由紀子さん〔二〕
「お父さん、ぼくは帽子よりも
お母さんが好きなんだよ〜」



かえで あかね
楓ちゃん・茜ちゃん
(平成18年8月31日生)
両親=長谷川 篤・香代さん〔二〕
「お互いが一番の友だち!
いつもいっしょな二人です」



ひろ む
弘夢ちゃん(平成20年2月2日生)
両親=崎山能弘 志穂さん〔埴〕
「いつも笑顔でニコニコしてるよ。
早く歩きたいなあ!!」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



8 学びの励み

農村を救った和のサムライ 大原幽学

学問を学びながら、日々の勤労にも精を出すことは大変です。禁欲的な教えから、喜びや達成感を得られるような仕組みを、幽学はきちんと用意していました。それが「景物」と呼ばれるもの。自筆の和歌や俳句、生活用品など、幽学自らが、門人たちに与えた「褒美のこと」です。優秀な門人に対しては、会合の際などに表彰してその善行を褒め称えました。女性にはくしやかんざし、子どもには筆や墨などを贈ったことが記録に残っています。実際の例をご紹介します。

ばくちから足をあらひ、農業ひとすじでやり直そうと決めた弥兵衛。その人生の再出発を祝い、自筆の句を与えました。

彦三郎妻きわは、一日に稲四百八十束をこぎ、日ごろから親や夫ともよくつきあい、家事も頑張っていることから、かんざしが与えられました。

幸左衛門娘すみ、十三歳。いつも

▲景物の品。女性にはくしやかんざし、手鏡が贈られました



母のいつけを守り、身体が小さいにもかかわらず、一日に二百束の稲こぎをしたことに対し、「まことにあつぱれ」と、針箱が与えられました。忠衛門息子の忠三郎、九歳。あるとき米を二斗二升、夜にも米三斗をついたことで、上等の筆が贈られました。

勤勉で実直な暮らしを送ることの尊さを、景物というささやかな褒美に託したのです。これも、農民たちの心を支えた幽学の仕法のひとつです。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- 1日(木) 元日
- 5日(月) 市役所仕事始め
- 10日(土) 消防出初式(9:30~ スポーツの森公園)
- 11日(日) 成人式(10:00~ 東総文化会館)
- 12日(月) 成人の日
- 18日(日) とがらしごぼう(5:00~ 西宮神社)
- 25日(日) 第4回グリーンコンサート(13:30~ 東総文化会館)

古紙配合100%再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

市内局番「60番台→50番台」「50番台→60番台」へかけるときは「0479」が必要です。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。さて、「今年こそ〇〇しよう」と思っている方も、ただ時間だけが過ぎてしまっていることも。思えば、毎日家族という時間や友人との時間、自分の時間など、普段何気なく過ごしている時間はどれも大切で、貴重なもの。気にしないと、当たり前のごとのように過ごしてしまう1日。でも、そういう日々を毎日送れるということは、本当はすごいことなのかもしれません。よし、今年は何心も忘れずに、1日1日を大切に過ごしていこう。(S)